平成30年度 第2回

君津市総合教育会議 会議録

日時：平成30年7月23日 午後1時30分～

場所：議会第2委員会室

平成30年度 第2回君津市総合教育会議会議録

1 日 時 平成30年7月23日(月)午後1時30分開会 午後2時15分閉会

2 場 所 議会第2委員会室

3 出席者 市長 鈴木 洋邦 副市長 石井 清孝
教育長 山口 喜弘 教育長職務代理者 伊澤 貞夫
教育委員 佐藤ますみ 教育委員 小倉 洋一
教育委員 大野 睦

4 出席職員 総務部長 黒川 倫行
教育部長 加藤 美代子
教育部次長(事)教育総務課長 榎本 弘
教育部副参事(事)学校教育課長 大久保 克巳
学校教育課管理担当主幹 縄谷 和利
教育センター所長 菊地 勝幸
教育センター副所長 青木 利徳
学校再編推進課長 高橋 克仁
学校再編推進課副主査 野城 良幸
教育総務課副課長 鈴木 洋和
教育総務課施設係長 石黒 裕之
教育総務課企画総務係長 鈴木 孝明

5 傍聴人 0名

6 議 事 (1) 小櫃・上総地区における統合校の新校名について
(2) 学校施設等における安全対策について
(3) 児童・生徒の重大事態に係る事案の経過報告について

7 議題及び議事の概要

【次第 1 開会】

加藤教育部長

それでは定刻となりましたので、ただいまから平成30年度 第2回君津市総合教育会議を開会いたします。はじめに、この会議の進行でございますが、君津市総合教育会議運営要綱第3条第2項の規定により、議事の進行は、議長が指名する職員に行わせることができるとされておりますが、市長、いかがいたしましょうか。

鈴木市長

加藤教育部長、お願いします。

加藤教育部長

それでは、ただいま、市長から指名をいただきましたので、私が会議の進行を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

【次第 2 議事】

(1) 小櫃・上総地区における統合校の新校名について

加藤教育部長

それでは、次第に則り、進めさせていただきます。

議事(1) 小櫃・上総地区における統合校の新校名についてを議題といたします。

事務局よりご説明申し上げます。

高橋学校再編推進課長

それでは、お手元の資料「小櫃・上総地区における統合校の新校名」により説明いたします。まず趣旨となりますが、本市では平成29年1月に学校再編第1次実施プログラムを決定いたしました。このプログラムには学校の統合という項目が含まれており、小櫃・上総地区では、統合により小学校、中学校各1校、新たな学校が生まれることとなります。この統合2校の新校名を選考しようとするものです。

次に校名の決定に至る進め方ですけれども、2ページをご覧ください。校名決定までの流れは、この順番で進めてまいりました。まず統合準備室、こちらは学校の統合を実務的に決めるための組織の総称であり、学校、保護者、地域代表者等で構成されています。こちらでは小糸・清和地区の例に倣いまして、校名について広く公募することを決定しました。

その後、応募用紙の回収及び集計を行い、校名候補を各校3から4点程度に絞り込みまして、推薦理由を検討しました。現在この段階にあります。

そして、その後総合教育会議に諮り、教育委員会で準備室からの推薦案を協議いたしまして、校名の原案を決定し、小学校、中学校の設置条例の改正条例を上程するといった運びになります。

なお、平成29年12月に小糸・清和地区の校名を決める際も、このフロー図で決定しました。さらに今後校名を決定する際には、このような手順を踏んで決定するところとします。

次に、これまでの経緯ですが、昨年の11月、小櫃・上総地区の統合準備室を設置し、校名候補の選考方法について協議しました。そして今年の1月22日から2月21日まで校名募集を行い、2月末の総務部会で校名候補の絞り込みを完了しました。4番目の募集の結果ですが、市内だけでなく県内外からも応募いただき、総数にしますと389件です。

次に5番目、統合準備室からの推薦書につきましては、3ページをご覧ください。こちらは上総地区統合小学校、すなわち久留里・松丘・坂畑、3小学校の統合校名の候補です。推薦順位1番の「上総小学校」、漢字の上総小学校。2番目は「上総の森小学校」。そして、平仮名の「かずさ小学校」の3点です。推薦理由は、記載のとおりですが、やはり、こちら上総地区の3校が統合しますので、上総の名前は残したいということです。

4ページをご覧ください。こちらは、小櫃・上総地区の統合中学校、小櫃・久留里・松丘・亀山の4中学校の統合校名の推薦案です。地区名を残したいとの思いから、「上総小櫃中学校」が1番に挙げられています。2番目には、君津の東に位置するということから「君津東中学校」が。そして3番目は、新しい学校作りという観点から、地区名を使わず「君津若葉中学校」といった名称が推薦されております。

なお、5ページから6ページにかけては、参考までに小糸・清和地区での統合校名決定までの経緯を示しています。説明については以上です。

加藤教育部長

ただいま、事務局からの説明が終わりました。それでは、委員の皆さんからご意見を頂戴したいと思います。はじめに伊澤委員、いかがですか。

伊澤委員

校名決定までの流れとしては小糸・清和地区の流れと同じだと思いますが、具体的なス

ケジュールについて説明していただければと思います。

加藤教育部長

事務局、お願いします。

高橋学校再編推進課長

小糸・清和地区の校名の決定の際、今後、学校名を決定するときには、先程ご説明しました「校名決定までの流れ」と同様の手順を踏んで決定していくことといたしました。「校名決定までの流れ」をご覧ください。重複する部分もありますが、これまでの経緯も含めて説明いたします。

まず、この統合準備室の総務部会、昨年11月に開催されましたが、こちらで校名の選考ですとか、募集対象とか範囲について協議をしました。これも小糸・清和地区と同様の取組です。そして、校名募集の手続きやアンケートの配付を、統合準備室の運営部があり、事務局は学校再編推進課となりますが、手続きやアンケートの配布を行いました。校名の募集については、学校に配布を行ったり、地域への回覧、ホームページなどを介して、広く公募を行いました。

そしてアンケートの回収・集計を行いまして、2月の末に統合準備室の総務部会を開催したところですが、そこで小学校、中学校それぞれ3点ずつに絞り込んで、その校名と推薦理由をいただきました。

そして今日、総合教育会議と、この後の教育委員会会議でご提示させていただいている状況です。これは非常に多くの件数の中から選りすぐった案を抽出したものでして、この場ですぐに決められませんので、まず、この場で提示をさせていただき、ご検討いただいた上で、9月の教育委員会会議までには決定をしていただきたいと思います。

条例については、君津市立小学校設置条例、中学校設置条例それぞれありますけれども、条例改正のための校名の原案をその教育委員会会議で決定した後に、12月議会に改正条例を提出しまして、最終決定の運びにしたい、そういった手順を、現在考えています。

加藤教育部長

いかがですか。

伊澤委員

もう一点よろしいですか。校名は色々な名前を挙げて、こんな名前も挙がってくるのかと思いましたが、特に気になったのは中学校の「上総小櫃中学校」ですか、上総と小櫃、名前の順番があるのですか。

加藤教育部長

事務局をお願いします。

高橋学校再編推進課長

こちらについては、小櫃、上総、両地区の名前を残したいという意味でして、両方の地区から、相手を先に持ってきて尊重するとか、あるいは自分を後に持ってくるとか、そのような意見が各地区から出されました。

また、もうひとつ上総の国の中にある小櫃地区の中学校という意味合い、こうした意味合いが込められているものと認識しております。

地区名を残したということは、学校名に地域名が入っていないと、どこにある学校か分からないという意見もいただいております。そうした意見は、小櫃・上総地区、両地区の方から出されております。

加藤教育部長

続きまして、大野委員いかがですか。

大野委員

統合準備室の中の総務部会で、今回このように校名を絞り込んでいただいたと思いますが、色々な意見が出されたと思います。主な意見がありましたら、お聞かせいただければと思います。

加藤教育部長

事務局、お願いします。

高橋学校再編推進課長

一番多かったのは、やはり通学する学校の場所が分かるようにということです。地域の名前はどうしても残したいという意見でした。あとは、推薦書にもありますように、

平仮名にすることで新しさや柔らかさが出るのではないか、あるいは子どもの成長を願うものなど前向きな意見が多くありました。

加藤教育部長

それでは続きまして、小倉委員いかがですか。

小倉委員

小糸・清和地区の校名決定までの流れと比べて地域上の特性など大きな違いはあるのかということと、小糸・清和地区は周東中学校という名前になって、歴史的な由来に基づく名前になっていますけれども、今回の推薦書を見てみると、小櫃・上総地区においては歴史的な名前は入ってないように思いますが、何か理由があるのでしょうか。

加藤教育部長

事務局お願いします。

高橋学校再編推進課長

それでは2点、ご質問をいただいております。校名決定までの流れについての地域上の特性と歴史的な経緯について、どのようになったのかということだと思います。

まず1点目について、お答えをします。小櫃・上総地区の校名決定までは、小糸・清和地区と比較しまして、基本的には同じ考え方で進んでおりますけれども、公募から決定までの期間は、小櫃・上総地区の方が若干長くなっています。これは小櫃・上総地区が小学校3校、中学校4校という校名を決めるため地域が広いということと、対象学校数が多いことに配慮しまして、時間をかけて協議することを考えていたためでございます。そして、会議の結果は、それぞれの地域の強い思いがありましたが、互いに尊重しようという雰囲気ですべての会議は行われました。

次に、歴史的な経緯ですけれども、小糸・清和地区というものが、かつて「すえ（周淮）郡」であるといったことに対し、小櫃・上総地区は「あびる（畔蒜）郡」、「もうだ（望陀）郡」と呼ばれていました。そのため応募の中には、小櫃・上総地区のかつての地名である「あびる」ですとか「もうだ」も含まれていました。こうした歴史的な由来のある「あびる」「もうだ」という響きですとか、漢字表記、こちらは非常に難しいところもありまして、今回の推薦には至らなかったと認識をしております。

加藤教育部長

それでは、佐藤委員いかがですか。

佐藤委員

学校名は、今日ご報告いただいた「校名決定までの流れ」で、12月議会で決定するというので承知いたしました。確か先程のご説明で、昨年度の2月末に絞込みまで決定したと伺いましたが、なぜここまで時間が空いたのでしょうか。

加藤教育部長

事務局、お願いします。

高橋学校再編推進課長

昨年度末になりますけれども、2月28日に総務部会を開催しましたが、校名については準備室の方々で話が進みまして、小学校、中学校それぞれ3つの案に絞込みまでいただきまして、推薦理由についても、概ねまとまったところでございました。

そしてその後、3月27日の教育委員会会議の協議会で、教育委員の皆様には、その旨を報告させていただきました。

しかしながら、年度末であったため、統合準備室の委員についても変更がありました。また、学校側の卒業もありまして、今年度、第一回目となる当該地区の総務部会の開催後、そして新規の委員も迎えた中で、改めて、推薦書を教育委員会会議へ提出することを了承いただく必要もあったため、現在のような状況になったところでございます。

加藤教育部長

それでは続きまして、山口教育長、いかがですか。

山口教育長

新しい学校名につきまして、市民の多くが納得すると、そういう民主的な手続きを踏んで決定していくということが一番大事だと考えております。このことは市議会からも要望されておりまして、先行する小糸・清和地区においても、そうした考えのもとで、実際に、かなり丁寧に手続きを踏みながら進めてきたところでございます。

それから統合にあたっては、古い既存の校舎を大規模改修することが必要になってきま

すが、その財源の確保ということも、たいへん重要でございまして、具体的には国の補助金でございすけれど、通常の改修だと補助率が3分の1ということになります。ただ統合の場合ですと、条例化するなど担保をしていることを条件に、補助率が2分の1とかなり有利になるということがあります。

それから全国的に統合が加速度的に進んでおります。国の補助金の枠も限られている中で、オリンピック・パラリンピックの開催の影響で、請負の工事がかなりタイトになっているということもあります。ですから、統合スケジュールをちゃんと守っていくという意味においては、速やかな校名決定と市長部局との強力な連携のもとで、先を見越した戦略的な対応、これに心がけていきたいと思っております。私からは以上です。

加藤教育部長

それでは、副市長いかがですか。お願いいたします。

石井副市長

小学校・中学校ともに、皆さん地域の名前を残したいという思いが強いことが伝わったところです。小学校については、いずれも「上総（かずさ）」という名前が入っておりますけれども、中学校は、一番目の「上総小櫃中学校」という地名が入っているもの、二番目の「君津東中学校」という方角を示すもの、三番目の「君津若葉中学校」という子どもたちの成長を願ったものなど、それぞれ選定の観点が異なってくるのかと思いますので、その点をご留意のうえ協議していただければと思います。私からは以上です。

加藤教育部長

それでは、市長、全体的な部分でいかがですか。

鈴木市長

小糸・清和地区と同様、応募のあった案については、子どもたちをはじめ、地域や保護者、卒業生、教職員など、多くの方々からの切なる思いがたくさん込められているものと思います。

今回は、統合する学校の数が増え、広い範囲の地域が一緒になることになります。そのため、選定にあたっては、特に、互いの地域を十分尊重したうえで、既存の学校名とのバランスなど配慮のうえ、十分に議論を尽くすようお願いいたします。

広大な小櫃・上総地区にふさわしい校名の決定をお願いしたいと思います。以上でございます。

加藤教育部長

ありがとうございました。

それでは、ただいま議事となっております、議事（１）小櫃・上総地区における統合校の新校名については、皆様からいただきましたご意見等を踏まえまして、このあと開催します教育委員会会議において協議をさせていただきます。

（２）学校施設等における安全対策について

加藤教育部長

続きまして、議事（２）学校施設等における安全対策についてを議題といたします。事務局よりご説明申し上げます。

榎本教育部次長

それでは資料の 7 ページをご覧ください。学校施設等における安全対策について、説明します。まず 1 の概要及び経過ですが、6 月 18 日に発生しました大阪府北部を震源とする地震により、ブロック塀が倒壊したことを受けまして、市の学校施設におけるブロック塀等の有無について調査を実施いたしました。

経過については、まず 6 月 18 日に大阪北部地震が発生。それから校内の緊急安全点検と学校敷地や外周等にブロック塀がないか、各校へ調査を依頼しました。6 月 19 日には学校からの報告を受け、ブロック塀に係る現地確認を行いました。これは 20 日まで行っています。

続いて 3 の調査結果ですが、国土交通省告示に定められている判定基準に基づき、安全点検を行っています。判定基準については、この表にあるとおり、建築基準法施行令第 61 条又は第 62 条の 8 の規定に適合しないこと、それから、著しいひび割れ、破損又は傾斜が生じていること、ということになっていまして、判定基準のいずれかに該当するブロック塀等については、速やかに原則撤去等の安全対策を実施します。

詳細については、8 ページをご覧ください。特に学校の大和田小学校、坂田小学校、小糸小学校、秋元小学校、久留里小学校、松丘小学校、君津中学校、周南中学校、松丘中学校については、判定基準に該当するブロック塀等があるため、安全対策を実施します。現在、

順次進めており、今月中に撤去するところもあります。夏休み中に進めていきたいと考えています。

7ページをご覧ください。4の学校における安全対策については、(1)としまして、安全確保の徹底として、通学路等において建物やブロック塀など倒壊の恐れのある場所の点検。それから、地域や関係機関と連携しながら通学路等の安全対策を講じること。学校敷地内の非構造部材の安全確認を行っております。それから(2)としまして、安全教育の徹底として、もし地震が起きた際に「落ちてこない」、「倒れてこない」、「移動してこない」そういった場所に素早く身を寄せて安全を確保するよう指導を行っております。

加藤教育部長

ただいま、事務局からの説明が終わりました。それでは、委員の皆様からのご意見をいただきたいと思っております。はじめに伊澤委員、いかがですか。

伊澤委員

この件ですけど、ブロック塀が倒れて児童が亡くなったという、たいへん痛ましい事故でした。それに対して君津市も速やかな対応、本当に感謝申し上げます。

ブロック塀がクローズアップされているのですが、校舎や体育館の中等における照明器具の落下防止とか、あるいはガラスの飛散というようなことも、色々考えられると思います。そうしたことに對して、どのように対応していくかということも今後課題のひとつに挙げられると思っておりますけど、第三次きみつ教育 創・奏5か年プランの重点目標に挙げられておりましたので、子どもたちの安全安心のためにも着実に取組を進めていただければと考えておりますので、その点強くお願いしたいと思っております。

加藤教育部長

事務局、お願いします。

榎本教育部次長

非構造部材の耐震化につきましては、重要な課題であると認識しております。第三次きみつ教育 創・奏5か年プランの中でも重点目標として掲げていますので計画的に進めてまいります。なかでも、人命の危険に関わる吊下げ式バスケットゴールの撤去を優先して取り組んでいきたいと考えています。

加藤教育部長

それでは続きまして、大野委員いかがですか。

大野委員

単純に通学路に面しているブロック塀を調べると、かなりの数があると思います。対策をするにしても、なかなか限界があると思います。ですから、子どもたちも通学に際して自分の身は自分で守るような、そういったことも学ぶ機会がないかと思いますので学校側から子どもたちへ、どのように通学に対しての指導をしているのか、教えていただければと思います。

加藤教育部長

事務局、いかがですか。

大久保学校教育課長

学校では、本当に様々な状況を想定した避難訓練、また安全教育を実施しているところ です。例えば、休み時間や登下校中などに地震が起こったことを想定したワンポイント避難訓練等を実施し、自分の身は自分で守る、そうしたことを徹底し訓練しています。

また、通学路を全て確認するのは限界があるということでお話をいただきました。そうした中で、学校独自ではないのですが、学校の女性教職員と PTA が連携した、母と女性教職員の会という任意団体ですけれども、そういった団体がありまして、その中では毎年、PTA と先生方で通学路を歩きながら、通学路の安全確保の点検をしており、その整備に向けた要望を市に提出していただいております。そして、市も順次改善に向けて努めているという状況です。

加藤教育部長

それでは、小倉委員いかがですか。

小倉委員

学校にはブロック塀の他にも石柱や石碑などもあって、地震で壊れるという危険性があると思います。

小櫃小学校でも石柱、石碑もありますが、バックネットなどは相当古く、なくてもよい

のではないかと思われる状況になっていますので、そういう部分を見直していただきたいと思っていますけれども、よろしくをお願いします。

加藤教育部長

事務局、お願いします。

榎本教育部次長

校門の石柱や記念碑など、学校名や歴史など学校のシンボリックな側面もありますので、安全対策については学校と協議していきたいと思います。また、小櫃小学校のバックネットについても協議していきたいと考えています。

加藤教育部長

続きまして、佐藤委員お願いいたします。

佐藤委員

学校内に設置されたブロック塀については、早急に対応していただけるということで安心しました。しかしながら、子どもたちの通学路沿いの住宅にも、同じようにブロックが積まれている光景を目にします。民家のブロック塀を市で対応することは難しいと思いますが、所有者への指導などを、市として何か対応できることはありますか。

加藤教育部長

事務局、お願いします。

榎本教育部次長

ご指摘のとおり、通学路沿いにも同様のブロック塀がある住宅がありますけれども、過去には、平成8年にコンクリートブロック塀等が保安上危険な状態である所有者に対して、関係部署から改善の勧告を行ったこともあります。

教育委員会としましては、民家のブロック塀について指導等を行う立場にないことから、住宅の審査や指導を担当する部署、そういった関係部署と連携して、通学路の安全確保に努めていきたいと考えています。

加藤教育部長

続きまして、山口教育長、いかがですか。

山口教育長

学校は、教育活動の場であり、その大前提となるのが、子どもたちの健康、命、安全、安心であります。これが最優先事項だと私は思っています。

今日、子どもたちを取り巻く環境というのは様々なリスクがあります。最近でも下校中に女兒が巻き込まれた新潟の事件、それから、今回は地震によりますけれども、ブロック塀の倒壊事故もそうであります。この対応につきまして、素早く財政当局をはじめ予算をつけていただいて、危険なブロックの撤去事業に早速着手してくれたということを市長に感謝申し上げます。

それで災害列島と呼ばれる日本でございますが、今回の西日本の豪雨、地震、台風、それから今日もそうですけれども35度を超える連日の猛暑ということです。この現象は、近年、毎年見られまして、エアコンが整備されていない学校においては、熱中症の発生リスクは極めて高いということで、いつ何が起こってもおかしくない状況でございます。

そのような中で、子どもの命をどうやって守っていくのかというのが課題でございます。学校として子どもたちに、先程、学校教育課長からもございましたけれども、まず防災防犯教育というものを、しっかり行う。その一方で、行政サイドとしても、危機管理意識をしっかりと持ち、通学路あるいは施設設備の整備点検、これを励行しまして、更には市長部局との関係を密にしまして事故の未然防止に、しっかりと取り組んでいきたいと思っております。それから万一事故が起こった場合の対応についても、しっかりと取り組んでいきたいと思っております。

加藤教育部長

他に、何かございますか。伊澤委員。

伊澤委員

今、教育長から暑さということがありましたので、一点だけお願いしたいと思います。私が小学生、中学生の頃は30度になったことは、なかったのではないかと思います。

それで、年を重ねてきて、特に今年は外出するのも嫌ですし、子どもたちがこの暑さの中で、外で部活動に取り組んでいるとか、あるいは教室で授業を行っているといっても、

教室にエアコン等はありませんので、授業効率はそこまで上がらないのではないかと思いますので、一過性で今年だけこんなに暑ければよいのですけれども、今後異常気象で続く可能性もありますので、できれば各教室にエアコン等を設置し、それで君津市をこれから背負っていく子どもたちにしっかりした教育をしていければよいなと思います。その点是非よろしくお願ひしたいと思います。

加藤教育部長

ご意見として伺わせていただくということでもよろしいでしょうか。
それでは榎本次長、お願ひします。

榎本教育部次長

現状ではエアコンが設置されておらず、大型扇風機を各校に配置して対応しています。エアコンの設置は以前からも検討しており、現状はこのような状況でございますが、今後とも検討していきたいと考えています。

伊澤委員

ぜひ検討してください。

加藤教育部長

他にございますか。それでは副市長、いかがですか。

石井副市長

ブロック塀の関係で、今回の事案を受けて、市内の公共施設のブロック塀等の緊急点検を行ったところです。やはり子どもたちの安全対策が最優先ですので、必要な対策を講じたいと思っておりますし、また、学校施設の安全対策も当然大事です。

また、教育長からの発言にもありましたように、ここ最近猛暑も続いておりますし、暑さ対策も考えていかなければなりません。伊澤委員からも、ご要望がありましたけれども、市としては、子どもたちの熱中症対策として、エアコンの設置を考える時期にきていると思っております。

加藤教育部長

ありがとうございました。それでは、市長、全体的な部分でお願いいたします。

鈴木市長

今回、大阪で起きた地震により、学校施設のブロック塀が倒壊し、児童が巻き込まれてしまったことは、とても残念なことです。本市で、そのようなことがあってはなりませんので、安全第一で適切に対応してまいりたいと思います。よろしくをお願いいたします。

加藤教育部長

ありがとうございました。

それでは、ただいま議事となっております、学校施設等における安全対策については、引き続き、市長部局と連携して対応していきたいと思います。

（３）児童・生徒の重大事態に係る事案の経過報告について

加藤教育部長

続きまして、議事（３）児童・生徒の重大事態に係る事案の経過報告についてで、ございますが、こちらにつきましては個人に関する情報が含まれておりますので、君津市総合教育会議運営要綱第４条の規定により、非公開で実施したいと思いますが、よろしいでしょうか。

市長、教育委員

<合意>

これまでの総合教育会議の議題であった重大事態に係る事案について、事務局からその後の経過を報告し、情報を共有するとともに、今後の対応について協議・調整を行った。

【次第 ３ その他】

加藤教育部長

続いて、次第の３、その他でございますが、事務連絡事項等も含めまして、委員の皆さんから、若しくは事務局からございましたら、お願いします。

加藤教育部長

特にないですか。

それでは、本日の議題はすべて終了いたしました。

以上をもちまして、平成30年度第2回君津市総合教育会議を終了とさせていただきます。ご協力ありがとうございました。